

令和7年3月

No.148

OKAZAKI COMMUNITY SPORTS MAGAZINE

スポーツ推進だより



も

第4回岡崎市学区交歓ファミリーバドミントン大会 2～3

く

第65回全国スポーツ推進委員研究協議会 宮崎大会 4

じ

第72回東海四県スポーツ推進委員研究大会 5

岡崎市スポーツ推進委員研修会 6

エリアリポート【愛宕学区・矢作東学区】 7～8

第4回岡崎市学区交歓 ファミリーバドミントン大会

藤川学区 小野まゆみ 生平学区 杉田 至

令和6年12月8日(日)、岡崎市体育館にて第4回岡崎市学区交歓ファミリーバドミントン大会が開催されました。本大会は地域住民がスポーツを通じて交流し、楽しむ場として毎年行われる人気イベントです。

当日は、寒い日でしたが棄権するチームもなく、一般の部42チーム、ファミリーの部18チームが参加しました。試合は15点先取の3セットマッチ（デュースなし）また1セット10分ルールで行われました。予選はどちらもリーグ戦で、決勝に進めるのは1位のチームのみです。

ファミリーバドミントンは、昭和63年に京都で開催された京都国体の「バドミントン競技会場地」となった長岡京市が、手軽にバドミントンを広く親しめる独自のニュースポーツとして考案したものです。

1. 誰でも手軽に、安い費用でできる。

2. バドミントンコートを使用するため、ほとんどの体育館でプレーできる。

スポーツとして人気が広がってきました。

ファミリーバドミントンは1チーム3人で行います。コートはバドミントンと一緒に、ラケットはバドミントンより少し短く、スポンジの球にバドミントンの羽がついているシャトルを相手のコートに2打以内で返します。シャトルがスポンジでできているため、思い切り打っても速度はそこまで速くなく見やすいです。ルールも簡単で、大人も子どもと一緒に楽しめるスポーツです。また前衛後衛のローテーションがあるため、真剣に取り組むと奥が深く夢中になります。ぜひ、はじめてみてはいかがでしょうか？



参加者の声

～ファミリーバドミントン以外にも何かスポーツをやっていますか？

「硬式テニス、ソフトテニス（現役高校生部活）、野球、ソフトミニバレー、バドミントン…」

～どのくらい練習していますか？

「月に3回くらい子どもたちと一緒に練習しています」

「学区の予選がある時に家族で参加を決めて少し練習したくらいです」

～次回も参加したいですか？

「次回は決勝に進みたいです」

「他の学区に知り合いがいました。大会だけでなく練習試合もできたらと話をしました」

大会の様子

大会は予選リーグからスタートし、各チームが優勝を目指して力強いプレーを披露しました。特に決勝トーナメントでは、どの試合も接戦となり、会場は緊張感と興奮につつまれました。



試合結果

一般の部
優勝
竜美丘A

高いチームワークと安定感あるプレーで他チームを圧倒し、見事優勝を果たしました。



ファミリーの部
優勝
秦梨B

親子ならではの息の合った連携プレーで観客を魅了し、栄冠を手に入れました。



会場の雰囲気

会場では、参加者や観客の笑顔が絶えず、試合中の応援や歓声が響き渡りました。

ファミリーの部では、子どもたちの頑張る姿や親子のチームワークに感動する場面も多く見られ、心温まるひとときとなりました。家族で同じコートに入るスポーツは珍しく、なかなかできない経験です。ラリーこそ長くはないけど楽しそうにプレーしていました。ベンチからの応援も大きかったですね。

一方、一般の部の決勝戦では緊いけ緊いけ相手のミスを誘う攻撃や、ローテーション後の前衛後衛のポジションを見てターゲットを決めて狙う攻撃などいろいろなチームの作戦がありました。高いレベルの試合が展開され、スポーツとしての真剣さが感じられる場面が随所にありました。最後のポイントまで諦めない選手たちの姿に、観客も拍手を惜しみませんでした。

表彰式

大会終了後の表彰式では、優勝チームにトロフィーが授与され、参加者全員に記念品が配られました。また、大会運営スタッフへの感謝が述べられ、来年への期待が高まりました。



まとめ

今年のファミリーバドミントン大会は、多くの参加者と観客に支えられ、盛況のうちに幕を閉じました。スポーツを通じて地域の絆を深める素晴らしいイベントとなり、参加者全員が充実感を得られた1日となりました。来年もさらに多くのチームが参加し、より一層盛り上がる大会となることが期待されます。

岡崎学区 梅村 順子

「既成概念からの脱却」～宮崎で共に創る新たなスポーツの世界～のテーマのもと、第65回全国スポーツ推進委員研究協議会が令和6年11月14日(木)、15日(金)の2日間をかけて、宮崎市で開催されました。全国のスポーツ推進委員が一堂に会する機会であり、岡崎市からは10名が参加しました。

初日は、まず宮崎市ひなた武道館にて、特別講演「スポーツのちからと地域社会」が行われました。スポーツジャーナリスト、大阪芸術大学教授として活躍する増田 明美氏が壇上に上がり、地域社会におけるスポーツの役割と今後の在り方の一案を示してもらいました。正直自分は陸上とは無縁でしたので、どんな話が聴けるかと楽しみでした。小柄な増田氏が身振り手振りで力強く説明したり、会場に問いかけたりして、和気あいあいと盛り上がりました。



続いて、「これまでのスポーツ、これからのスポーツ」をテーマに武庫川女子大学 工藤 康宏教授、日本福祉大学 児玉 友准教授、宮崎県スポーツ推進委員協議会 岡本 真奈美会長の3氏によるシンポジウムが行われました。そのなかで、既存のスポーツの在り方を超え、【する】【みる】【ささえる】と様々な形でたくさんの人にスポーツの楽しさや感動を分かち合えるような地域社会を目指すことの大切さに気付かされました。年齢を重ねるごとにスポーツへの関わり方は変化します。堅苦しく考えずに、仲間という輪から新しいスポーツの形を広げていくのも一つの考えかと思えました。



2日目は3つの分科会が行われました。そのうち、岡崎市は『「つくる／はぐくむ」視点でのスポーツ推進』というテーマの分科会に参加しました。スポーツは基本のルールを創り変えながら、運動・遊び・ゲームとして楽しむことが大切です。一例として多様な方を参加可能とするローカルルールの設定が挙げられますが、参加者の年齢や体力、用具の種類等を考慮し、いかに楽しく優しく続けられるかを考える必要性を感じました。すべての人が楽しむことができるスポーツをつくることは、簡単なようで難しいことです。しかし、これからの地域とスポーツの在り方をよりよくするために挑戦を続けたいと思います。

結びに、全国大会は初めての参加だったため、興味津々でした。全国のスポーツ推進委員が集い、それぞれの話や聞くなかで、地域性があるとはいえ、抱える問題はたいして差がないように感じられました。岡崎市スポーツ推進委員として、みんなの声を拾い上げ、可能な限り幅広いスポーツを推奨しなくてはと考えさせられる2日間になりました。



第72回 東海四県スポーツ推進委員研究大会

六ツ美北部学区 廣重 勝利

令和7年1月31日(金)・2月1日(土)に、第72回東海四県スポーツ推進委員研究大会三重大会が、四日市市総合体育館を会場に、愛知・岐阜・三重・静岡の各県より総勢1,800名を超えるスポーツ推進委員が一堂に会して行われました。岡崎市は21名の参加となりました。

一日目は全体会です。開会式と表彰式では、長きにわたり地域のスポーツ振興・推進に尽力・貢献された方・団体に功労表彰が行われました。岡崎市からは、東海四県功労者表彰として井田学区 山本 幸正さんが表彰をされました。

続いてアトラクションでは、三重大学書道サークルによる書道パフォーマンスが行われました。大会のテーマ『人生110年時代を支えるスポーツ推進委員のあり方 ～現状維持は退化のはじまり～』を、6名の学生さんが順番に太鼓の曲に合わせ、力強くそして繊細に書き上げ、素晴らしいパフォーマンスを披露してくださいました。披露された書は会場に飾られ、会場が一層華やかになりました。

最後は、テレビ番組などでも大活躍されているスポーツ健康科学の専門家 谷本 道哉先生による講演が行われました。『人生110年時代を目指す 手頃にできる体づくり』について、筋肉のこと、加齢による筋肉への影響のこと、様々な視点や観点から最新の学説や研究成果を発表してくださいました。また、超ラジオ体操や筋肉体操について実技を交えながら楽しく教えてくださいました。谷本先生が日頃からテレビ番組などで行われている 楽しく・うれしく をモットーに筋トレを続けていけたら、人生110年時代も夢ではないかもしれない、そんな気もしてきました。



二日目は分科会です。3会場に分かれて研究発表が行われました。岡崎市は、一日目と同じ会場の四日市市総合体育館アリーナで行われた 第3分科会「ACP (アクティブチャイルドプログラム) の実践」に全員で参加しました。ACPとは、子どもが様々な運動遊びを通じて、楽しく、積極的に体を動かす中で元気な子どもを育てるためのプログラムのことです(恥ずかしながら私はACPというのを初めて聞きました)。

研究発表は、最初の30分くらいはこれまでの活動内容についてデータを交えて発表され、参加者みんながACPの必要性をしっかりと理解できたところで、実際にACPで行っている運動遊びをみんなで体験しました。何種類か体験させてもらいましたが、どれも簡単な動きがベースになっていて誰でも参加し易いですし、何より運動遊びを行っているみんなが笑顔で楽しんでいたのでとても印象的で、それこそが運動遊びの最大の効果だと感じました。

最後に、2日間の研究大会でたくさんの新たな知識を得る事ができました。また、実技体験も大変有意義なものになったと感じています。この講演会や分科会で得たものを今後の活動にしっかりと活かして参ります。



岡崎市スポーツ推進委員研修会

大門学区 堀口 晃司

令和7年2月22日(土)に、岡崎中央総合公園武道館にてスポーツ推進委員として必要な知識・技能を習得し、岡崎市のスポーツ普及・発展に寄与することを目的とし、「岡崎市スポーツ推進委員研修会」が開催され、「座位バレーボール」の体験を行いました。

ルールの理解から始まり、動きやパスの練習を行った後は、実際に練習試合も行いました。

初めて体験する方が多い状況でしたが、通常のバレーボールのルールと異なる座ったままでのプレーの難しさを理解するとともに、何よりその楽しさを知る貴重な機会となりました。

「座位バレーボール」の主な特徴は、名前の通り座ったまま行うバレーボールであり、床に臀部の一部が接触したまま行うことと、サーブブロックが認められていることです。

ブロックやスパイクをする際に臀部が床から浮いてしまう場合は反則となり、慣れないうちは無意識的に浮いてしまうことが試合中も散見されました。

また、座りながら前後左右に動き且つボールに触る事は大変難しく、参加者が自分の体の癖や特徴を最大限生かしながら工夫して動いている点が印象的でした。

私がとても興味深かったことは、コートが小さくチーム内でプレーが交錯したりお見合いしたりするため、声掛けが起るシーンがどのチームにも自然と発生していたことです。

スポーツ推進委員相互の親睦も深まり、交流を図る上で非常に良いスポーツであると感じました。



「座位バレーボール」は、1956年にオランダでリハビリを目的として考案され、現在日本での競技人口は約1,000人と言われています。

障害のある方はもちろんのこと、一部の国内大会においては健常者の方の参加も認められているようです。

2026年10月のアジアパラ競技大会の種目にもなっており、今回の研修場所となった岡崎中央総合公園が会場となります。

この大会をきっかけとし、より多くの方々に「座位バレーボール」を認知いただき、実際に競技する方々が増えることを期待したいと思います。

私自身は推進委員1年目ですが、自らが積極的に様々なスポーツを実際に体験し理解することによって、一人でも多くの市民の方々の健康保持推進に寄与できるよう活動してまいります。

学区に小高い山もあり、緑多き自然に恵まれ坂道の多い愛宕学区。

伊賀川の清流からもたらされる四季折々の風情を感じさせてくれています。小さな学区ではありますが、地域の皆さんのパワーには毎日驚かされています。新しく住宅も増え、また新しい人も増えてきており徐々に活気が出てきている気がします。

そんな愛宕学区ですが、ことスポーツになると少し他の地域よりは活気が無い気もしています。昔はソフトボール・バレーボール・バドミントンと盛んな時期もありましたが、最近は激しい運動ではなく、簡単なようで実は奥が深いモルックやペタンク、学区ウォークラリーといった優しいスポーツにシフトした感じがします。表にあるように、グラウンドゴルフは学区のお家芸的な位置になっているようで、毎週土日の朝には大勢の方が、学校のグラウンドでグラウンドゴルフを行っています。まだ父親がいた頃は自分もグラウンドゴルフクラブに入っていました。



学区内にはお祭り好きも多く、大小さまざまなお祭りが行われていますが、体を動かす事は忘れないようで、若いころを思い出したかのようにきびきびと動かれています。

私はというと、ソフトボールが大好きであの頃を思い出すとホントに楽しかったと思います。それが、どこかを境に生活環境や求めているものが変わってきたのかも知れません。



学区の皆さんはご自分の体調に合わせて体を動かす事に慣れてきた為、最近は歩いたり自転車に乗ったり走ったりと身の丈に合ったスポーツを見つけたようです。高齢者が多い学区ではありますが、推進委員として何かのスポーツを学区の皆さんと楽しみながら行えるよう広めていければと考えています。学区の皆さんの為に自分が貢献できるようにサポートしていきたいです。

学区内には新しい公園ができ、最近の流行り？かもしれませんが、体力をつける為の遊具が多くたまに公園に行ってはその遊具で体を動かしています。私もしっかりと学区の皆さんとスポーツを通じて対話・会話が出来るようになりたいと思います。

愛宕学区スポーツ行事	
5月	ふれあい大運動会
7月	学区七夕まつり (推進委員で1つ企画開催)
9月	学区グラウンドゴルフ大会
11月	3世代グラウンドゴルフ大会
2月	学区ウォークラリー



矢作東学区

今津 義彦

豊かな水をたたえ悠々と流れる矢作川。その中流に位置する矢作の地は、古来の歴史と文化を数多く受け継ぐ古式ゆかしい街です。なかでも、矢作東学区は国道1号沿いに広がり古くは宿場町として栄えていました。勝連寺の市指定文化財の貴重な絵画や、矢作神社に残る貴重な絵図、例祭の際に曳き回す豪華な山車の彫り物や装飾は見事で見応えがあります。是非遊びにいらしてください。

そして、矢作東学区では、7町区が集まり毎年5つのスポーツ行事を実施しています。地域選出のスポーツ委員さん、社教委員と共に学区民がスポーツを通じ、親睦を深め心身の健全な育成に寄与できるよう活動しています。

なかでも紹介したいのは、毎年秋に行われる学区民大運動会です。矢作東学区は、小学校の運動会と合同ではなく社教主催で学区民大運動会を行っています。玉入れや綱引きなどの得点競技の他に、子どもから大人まで参加しやすい楽しいゲームも取り入れています。クライマックスの年齢別町区対抗リレーでは、小中高生から大人でチームを作り、毎回白熱した戦いが繰り広げられて、観客の皆さんの応援も大盛り上がりです。



また、学区のふれあい行事では「誰もが楽しく親しみやすいニュースポーツ！」モルック、ペタンク、ニチレクボール、ディスクッターを取り入れ、少しでも多くの人々がスポーツに親しめる環境づくりを目指しています。

他にもスポーツフェスティバルをはじめ、岡崎市のスポーツイベントにも学区を挙げて積極的に参加しています。

今後も、活気ある矢作東学区をさらに盛り上げるべく活動して参ります。

矢作東学区スポーツ行事	
5月	楽々グラウンドゴルフ大会
6月	ソフトミニバレーボール大会
11月	矢作東学区大運動会
12月	ウォークラリー大会
1月	ファミリーバドミントン大会



発行 岡崎市スポーツ推進委員連絡協議会

編集 岡崎市スポーツ推進委員連絡協議会 広報・事業部

事務局 岡崎市社会文化部スポーツ振興課（TEL：23-6363）

H P <https://www.city.okazaki.lg.jp/1550/1556/281500/p021076.html>

